

医院だより

令和8年8月(277)

秋山医院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315



橘とアリ

朝山や葉月の月のきえのこり 永田清風
舌捲いて乳吸う仔牛葉月雲 中島斌雄

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

葉月(はづき) 別名 月見月(つきみづき)、
秋風月(あきかぜづき)・草津月(くさつづき)・木染月(こそめづき)・濃染月(こぞめづき)・紅染月(べにぞめづき)・萩月(はぎづき)・燕去月(つばめさりづき)・雁来月(かりくづき)・莊月(そうげつ)・桂月(けいげつ)・中律(ちゅうりつ)・難月(なんげつ)・中商(ちゅうしょう)

目次(頁)

- 1 八月の異称、八月の花、八月の言葉
 - 2 八月の暦、お知らせ、診療案内、健康テレフォン、
 - 3 大岡 信選集 けんこう(百九十九)
 - 4 ひとくちメモ(6)
- 院長のひとりごと(245)
(おトラ婆様)

『八月の花』

向日葵(ひまわり)・百日紅(さるすべり)・白粉花(おしろいばな)・大待宵草(おおまつよいぐさ)・百日草(ひやくにちそう)・下野草(しもつけそう)・鷺草(さぎそう)・柳蘭(やなぎらん)・露草(つゆくさ)・駒草(こまくさ)・野甘草(のかんぞう)・子鬼百合(こおにゆり)・夕菅(ゆうすげ)・山百合(やまゆり)

『八月の言葉』

そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ」同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。」(マルコによる福音書第十五章二九―三十節)

キリストは実に人を救うためには奇跡を行われましたが、自己(みずから)を救うためにはこれを行われませんでした。人を援けるための異能(ふしぎなちから)を備えたイエス・キリストは、自己を救うためには全然無能でありました。弱い者を救うためには風をも叱咤してこれを止められた彼は、自己の敵の前に立つてはこれに手向かおうとして小指一本さえ上げられませんでした。キリストの奇跡よりもさらに数層倍も不思議なものは、キリストの無私の心であります。しかしながらこの不思議な心があつてこそ、初めてあの不思議な業が行われたのであります。

内村鑑三「一日一生」7:18

「八月の暦」

一日 八朔、水の日
 二日 鬼貫忌、青森ねぶた祭
 三日 秋田竿灯
 五日 山形花笠祭
 六日 広島平和記念日、仙台七夕
 七日 立秋、鼻の日、新潟祭
 八日 御嶽山雲上大御神火祭
 九日 長崎原爆の日
 十日 西鶴忌
 十一日 山の日、高知よさこい祭り
 十二日 徳島阿波踊り
 十五日 終戦記念日

十八日 伝教大師誕生会

二十日 鎌倉宮祭

二十三日 処暑、一遍上人忌

二十六日 富士吉田火祭

お知らせ

一、マイナンバーカード、資格証明書で受付を行っています。

二、診療案内

『午後診療』では通常の診療のほか、

『予約診療』もできますので時間調整が必要な方はご利用ください。

予約は電話でもできます。

○当番医 八月九日(日)

○お盆休み 8月13～15日のため、

診療は8/13～16のあいだ、お休みとなります。ご迷惑をおかけいたしますがご了承ください。

『診療案内』

○ 一般外来診療

○ 往診・在宅医療(ご相談ください)

○ ピロリ菌の診断・除菌

○ CT、MRI、PETの予約

○ 胃・大腸内視鏡

○ インフルエンザ・新型コロナ・肺炎球菌・
 带状疱疹ワクチンなど

三、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

<http://www.raijin.com/kenko/>

電話 〇二七―二三四―四九七〇

月	歯の訪問診療
火	巨細胞性動脈炎
水	口が突然開かなくなった！ どうして？
木	更年期と鬱(うつ)
金	ブリッジのお手入れ法
土日	ヒトメタニューモウイルス 感染症について

大岡 信著『折々のうた』

鉦(かね)鳴らし信濃の国を行き行かば

ありしながらの母見るらむか

窪田空穂

『まひる野』(明三八)所収。信州松本在で生まれた空穂は、母親が四十を過ぎてからの末っ子で、両親に特に愛されて育ったが、青年期に母を、続いて父を喪った。「鉦鳴らし」は巡礼となつて、の意。『母見るらむか』は母が見るだろうかとも解せるが、作者自身は母を見うるだろうかの意で作つたらしい。「鉦を鳴らし」「母を見る」の「を」が省かれた形だろう。母恋の歌として愛唱され、牧水の「幾山河越えさりゆかば」の歌にも影響したらしいという。

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

若山牧水

早大英文科卒業の年自費出版した第一歌集『海の声』(明四一)所収。「幾山河」の歌もこれに収める。「白鳥」はここではカモメ。平福百穂筆の歌集表紙絵も、この歌による図柄だった。空や海の青に鳥の白を対照させ、広大な自然の中に生きる海鳥の、また作者自身の若い孤愁を哀傷する。現代短歌が避ける「空の青海のあを」のような単純な繰り返しだが、牧水の歌ではみごとに生かされて感情を流露させた。

ハナニアラシノタトヘモアルゾ

「サヨナラ」ダケガ人生ダ

井伏鱒二訳、于 武陵(うぶりよう)

『厄除け詩集』(昭二七)所収。晩唐の詩人于武陵の五言絶句「勸酒」の後半部。前半は「コノサカヅキヲ受ケテクレ ドウゾナミナミツガシテオクレ」。作家井伏鱒二は昭十年代の詩誌「四季」同人として、時折り秀逸な詩を発表する一方、このような中国詩の闊達な訳で人々をあつと言わせ、いずれも愛誦された。右の原詩訓読分は「花発(ひら)いて風雨多し。人生別離足る」というので、語調も内容もむしろ固い。もって自在な訳詩の妙を知るに足る。

けんこう(百九十九)

群馬県感染症発生動向調査より(28週)

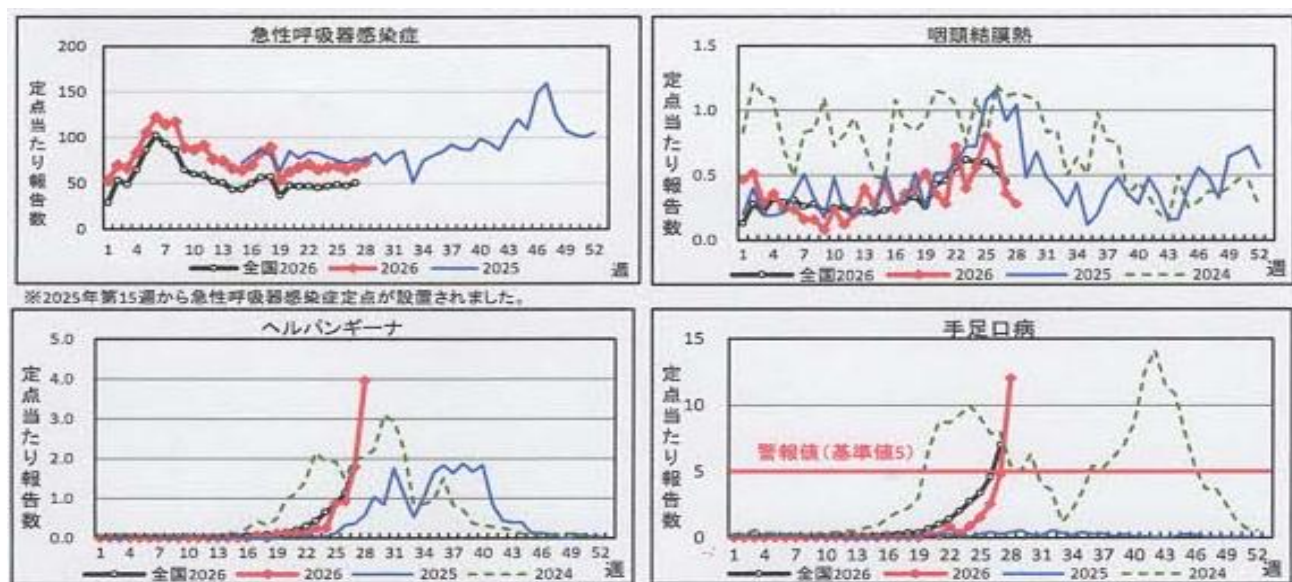
(群馬県衛生環境研究所感染制御センター)

★手足口病の報告が急増しており、警報が発令されました。

原因となるウイルスの中にはアルコール消毒が効きにくいものがあるので、手指は石けんと流水でよく洗いましょう。症状がある人は自宅でもタオルを共用しないようにしましょう

★腸管出血性大腸菌感染症は、気温が高くなるこれからの季節に特に注意が必要です。

肉は中心まで十分に加熱し、生野菜はよく洗って食べましょう。予防のために、こまめに石鹸と流水で手を洗いましょう。



ひとくちメモ(6)

熱中症について

1 熱中症とは何か

(1) 高温多湿な環境に長い時間いることで、体温調節が働かなくなり、体内に熱がこもってしまう状態。屋外だけでなく屋内で何もしないときにも発症し、救急搬送されたり死亡することもある。

*熱射病、日射病は、特に強い直射日光が原因になりおこるものを言います。

次のような症状が起きます。

A. 軽症：現場での応急処置で対応ができるもの

- ①めまいや顔のほてり
- ②立ちくらみ
- ③大量の汗、汗が止まらない
- ④筋肉痛や足がつれる（こむらえり）
- ⑤足、腕、おなかの筋肉の痛みや痙攣（こむら返り）

↓ 涼しい場所で休み、水分塩分

を補給、樹木の下、エアコンが効くところ、冷却、衣服をゆるめ

る、腋の下、脚の付け根を冷やす。

B. 中等症：病院への搬送が必要なもの

- ①水分補給ができない
- ②頭痛・吐き気・嘔吐・倦怠感・気分不快・虚脱感・集中力・判断力の低下

C. 重症・・・集中治療が必要になるもの **こんな人には注意**

- ①呼びかけても意識がない
- ②高齢者
- ③屋外で働く人
- ④キッチンで火を使う人
- ⑤スポーツをする人
- ⑥スポーツを観戦する人
- ⑦犬や猫を飼っている人は散歩に出歩くとき、動物はアスファルトからの反射熱が人より強いので要注意です。

2 熱中症にかかったかと思ったら

- ①直ぐに医療機関へ相談、または救急車を呼ぶ
- ②涼しい場所へ移動
- ③衣服を脱がし、からだを冷やして体温を下げる
- ④塩分や水分を補給する

院長のひとりごと(245)

おトラ婆さま

◇父が7人兄弟の末っ子で、私が6人兄弟の末っ子という事情だと、祖父の世代の生活や生涯を客観的に観察して評価して私に伝えてくれる人を見つけることはなかなか困難なことです。

◆「トラ婆様(ばさま)」の家は私の家の真ん前で、生活はお互いに丸見えでした。

婆様は私の祖父の異母弟のお嫁さんとして村内から嫁いで来ていました。

「トラさん」は私の長姉がお気に入り、で、いろいろ話を聞かせてくれたようだし、また、農村とは異世界から嫁いできた母は幼くして生母を亡くしていたこともあったであろうか、特別にその「トラ婆様」になつて何かにつけて相談などして「村のしきたり」について教わったり頼っていたこともあり、母と長姉からの「婆様情報」は間接的に私には結構多く伝わって記憶に残っていました。

母親や父親が気持ちよく付き合っている姿を見ることによって、子供も安心してその人に心を開くということとは当然と言えば当然であり、婆様と二人きりになっ

ていても母恋しがって泣くことは全くありませんでした。トラ婆様は私の最高齢の理解者であり、婆様にとって私は最少の聞き手であり語り相手であった。

◇私の祖父は明治の時世になり新しい村政の暫定村長と三代目を務めたが、トラさんにしてみれば夫の異母兄にあたる人でした。

祖父は長男（二十三才）を日露戦争で亡くしてしまった。

トラさんはその長男については「お嫁に行くなら○○さんのところ（ろ）へ」と村で言われ祖父からも期待されていた人だったと母に話してくれたという。悲しみが癒える間もなく次女の自死が続き祖父の悲しみは計り知れなかったが、しかし祖父は人前で涙を流すことはなく「これでよかったのだ」と言ったというので非情と評する人もあったといいます。これからの世は学問が大事と父に話し、師範学校を選ばせたのだと、父から聞きました。

◆祖父自身の生活の一端としてトラ婆様が話してくれたことは、祖父は役場から帰ってきて家の門の石垣の角を曲がるとすぐに羽織を脱ぎ始め、家に入ると作業着に着替えて農作業に取りかかるようなひ

とだったと母に話してくれたといいます。

◆父の次兄が家に入り家業を継いだが子供に恵まれず、結局父が兄の養子となり家を継ぎ、村の学校に勤めたが、終戦後の農地改革で田畑、山林までも失いました。

◇その父の成長も見ていた「トラさん」が母や姉に、子供のころ近所の女の子どもたちが「あそぼう」と父のところへやってくる、父の母親が

「だめだ、だめだ、帰れ帰れ」と追い払っていた、というエピソードも

母と姉に話してくれたといえます。父にとって婆様は頭の上がない人であったが、尊敬はしていたようです。

◆私は子供のころから母親の後ろに隠れて、おとなのはなしを聴いているだけの子どもでしたが、この「トラさん」にだけはふつうに話をするのができ、「どうしたい（の）？」と尋ねられると落ち着いた気持ちで話すことが出来ました。

◇これほど信頼ある人でしたので、午前中用事がある時には、母はトラ婆様に頼んで、朝から昼まで婆様と私の二人だけですごすことがありました。婆様は私の幼児期に母親以外の人と過ごしたりできる唯一人のひとでした。

◆非情なもので、そんなトラさんがいつ頃

亡くなられたか、そのときの記憶がありません。私が小学校に上がる前のことであつたと思いますが。腰の曲がった人であり、あさいしわの顔で丸い額と秀でた頬骨の間に小さな丸い目が二つ優しく光っていました。関心をもって人をやさしく観察する目でした。

◇私は起きると、体重を図り、血圧、体温を測るのが今の習慣になっていますが、置いてある体重計が曲がっていると測定するのが嫌で必ず真っすぐにしてから測定していますが、こういう性格はどこから来ているのかとずっと考えていました。

「席正しからざれば坐せず（席不正不坐）論語郷党篇」で孔子に学ぶ前から身についてしまっている性癖でした。ことさらに目立とうとしてやっているのか、人に褒められようとしてやっているのではないかと思ってしまうことがあります。偽善的な自分を憎むことがあったのです。

◆ある時、母が婆様がこんなことを言っていたと幼かった私に語ってくれたことがあります。

（ほかにこのような経験を持たなかったのが鮮明に覚えているのですが・・・）ある日、その婆様の家に近くの子どもたちが数人集まりこたつにあたりながらマ

ンガ本を読んでいたことがありました。上坐に婆様が座っていて子供たちを眺めていました。

私は読み終えた本をこたつから離れた本棚まで返しにこたつから出て、また新しい本を選んでこたつに戻り読んでいたことを婆様があとで母に話してくれたというのです。

母は嬉しそうにそのことをわたしに何回か語ってくれました。

それは、私は一冊読むと元に戻し、また新しい本を選んでこたつに戻ってきていたが、ほかの子どもたちは最初から数冊持って来ておくか、読み終わった本はそのままにしておいてまた別の本を取りに行っていたというのです。どちらがいい悪いということではなく、観察者からみるといろいろなやり方があるなど興味があつたということなのですが、母は嬉しそうに話してくれたのでした。

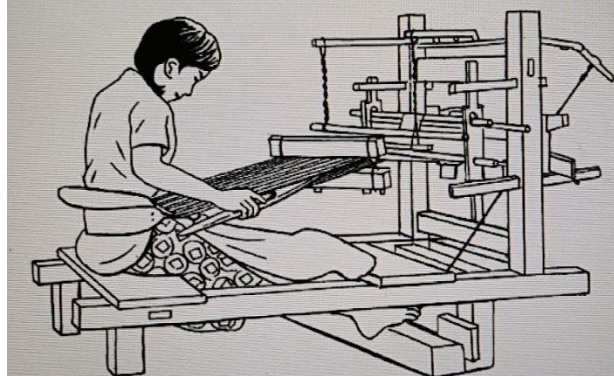
母の話を思い出すたびにその時の様子が浮かび上がってきます。意識してやっていなかったことを、その婆様から褒められたことがとてもうれしかったのです。

◆いまでも、喜ばれようとしてやったことが非難されたり、意図せずにやっていたことが喜ばれることがしばしばありますが、意図せずにやったことが、相手にと

っては嬉しいことだったと第3者を介して知ることがあるとトラ婆様とすごしたこんな幼い記憶を呼び起こしてくれてトラさんを想い出します。

余談 トラ婆様の娘さんは母親の実家に嫁ぎ、この地方特有の機織り（いざり機）の無形文化財となりました。昭和40年には織物を題材にした、松山善三監督による「六条ゆきやま紬」という映画が公開されました。主演の高峰秀子らの俳優さんたちがこんな小さな山里を訪れた村は大はしやぎでした。

いざり-ばたゐざり…【居坐機】



（精選版 日本国語辞典より）

いざりばた

おわび 8月半ばの落雷でインターネット障害からの回復が大幅に遅れ、発行が遅れてしまい予定表が利用できなくなつてしまいました。